

低金利下の経済運営について

学習院大学国際社会科学部教授
伊藤元重

- *長期的に経済の体温が落ちている
- *AIなどの急回復は難しい
- *ここから先は氷の地獄か灼熱地獄か
- *円を実効為替レートから考える
- *金融緩和限界なら円高傾向に
- *デフレ脱却に効果発揮したアベノミクス
- *問題は供給力の低迷
- *貯蓄志向から抜けられない日本企業
- *財政は収支と債務を分けて考えよう
- *反発強まるグローバル化の行方を注視



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

もう詳しいご紹介の必要もないかと思いますが、伊藤元重先生においていただきました。

世界の経済の状況が、あちこちで少し流動的になってきております。日本はちよつと風状態のような感じで、われわれは少し鈍感になっているのかもしれませんが、最近底流が大きく動いているのかなという感じもいたします。そういう意味で、現状とこれからの世界の経済の動向について、今日は伊藤先生にじっくりお話ししていただきたいと思っております。

それでは先生、よろしくお願いたします。（拍手）

長期的に経済の体温が落ちている

伊藤 伊藤でございます。まず、長期の潮流の中で今のマクロ経済の話をさせていただきます。そのなかで、私は専門が国際経済なので、本当は米中貿易摩擦とか今のグローバルな話もしたいんですけども、時間がどこまで残っているかによって、残りの時間で少しそのお話もするかもしれません。

今日申し上げたいいちばん重要な出発点は、今日の演題にある低金利です。本当はデータを皆さんにお見せするのがいちばんわかりやすいんですけども、起きていることは非常に単純なことです。1990年、バブル崩壊が日本で始まるころですけれども、約30年、日本もど